

サイタマレディース探検隊「県庁の星・部長の輪！」シリーズ

第9回 埼玉県危機管理防災部長 福島 亨様 平成25年11月7日取材



県庁の星シリーズ9人目は福島危機管理防災部長を訪問させていただきました。
危機管理防災部は、地震・風水害などの災害やテロ行為等の危機管理を含め、多岐にわたり県民720万人の生命・財産を守る重要な部門です。
今回は平成23年3月から運用を開始した危機管理防災センターにお伺いし、災害対策についてお話を伺ってきました。

【首都直下型地震について】

今後30年以内に発生確率70%の東京湾北部地震では県南東部の11都市区で震度6強・20市区町で震度6弱の揺れが想定されています。

埼玉県危機管理防災部は、東日本大震災の教訓を受け、地域災害から広域災害という観点へ視野を広げ、地域防災計画を立案しています。

新計画の柱は3つあります。

逃げる!!

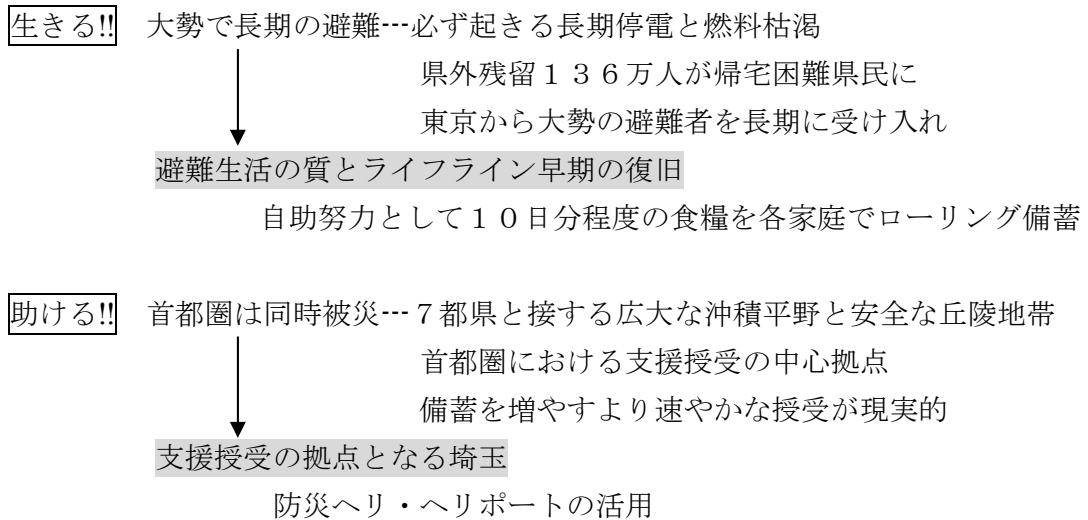
低リスクの埼玉県---災害は来るが他県より被害が少ない

津波や延焼・地下街ハード対策は軽易

人的被害よりも水害や液状化の財産被害を想定

↓
的確な避難情報で人命を失わない

避難場所・食糧情報・火災発生情報など“自分がどう行動すべきか”の情報を的確に提供



【公助・自助・共助のすすめ】

前述のような施策がとられていますが、720万人の県民全員の食糧備蓄は公費の面からも不可能で、公助には限界があります。

各家庭・事業所ごとの自助努力を必要とし、下記の3点に取り組んでいただきたいとのことでした。

家具の固定

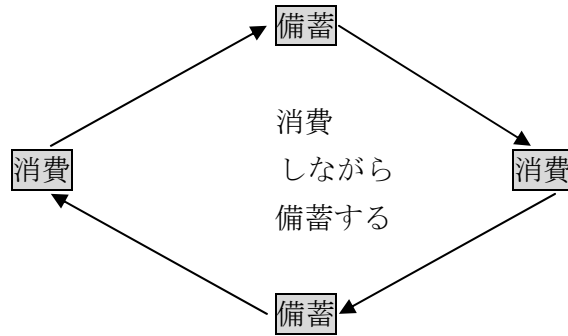
近年発生した地震で負傷した原因をみると、約30～50%の人が家具類の転倒・落下移動によるものでした。

- *家具・テレビなどの家電製品は金具やベルトで固定する
- *家具を栈のような頑丈なものに固定する
- *転倒しづらいように重い物は下の段に置く
- *食器棚の扉には金具をつけ滑り止めシートを敷く
- *ガラスには飛散防止フィルムを貼る
- *照明をチェーンで固定
- *家具が倒れても出口をふさがらないよう配置

食糧のローリング備蓄

各家庭・事業所で食糧・飲料水を10日間程度備蓄する。

備蓄の方法は、加工食品を普段から多めに保管し、それを日常的に使い、新しい物を買って足すという“ローリングストック”方式が無駄なく、有効だそうです。



災害用伝言ダイヤル171の活用

災害時の安否確認のツールとして伝言ダイヤルを活用して欲しいとのことでした。

【企業に求められる災害対策とは】

BCP（事業継続計画）の策定をすすめ、有事の際により早く業務が再開できるよう準備する。具体的には従業員の安否確認・連絡網の策定・業務データの分散・資材・原材料の確保など 詳細については中小企業庁のHPをご覧ください。

県内経済の立て直しには、埼玉県内の中小企業を含む企業の早期業務再開が不可欠であるということでした。

【取材後記】

埼玉県危機管理防災部は、常に最悪の状況を想定し、最善の策を講じる部署として、有事の際には、各分野のスペシャリストとともに県民720万人の安全を守る重要な役割を担われます。

“私が活躍しないで済むことが一番なんですよ。”と微笑まれる福島部長の柔和な笑顔の中に、大きな重責を背負われていらっしゃることを感じました。

最後に長時間にわたる取材にご協力いただきありがとうございました。